

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770108971		
法人名	社会福祉法人エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホーム フローラ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市中区福田549-8		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2770108971-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で暮らして頂ける様支援しています。2階の方は認知症の中度から重度の方が生活しており、認知症の理解や周辺症状による理解又精神的な面からもきめ細やかな対応が必要になってきます。その時々への訴えに対応出来る様、職員で連携し、笑いの絶えない日々を過ごせる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根差した施設」を目指して設立されたホームはバス停のすぐそばにあり、近くの府営住宅内にある公園は、桜や梅の木がある春の散歩コースです。ホームが発行する新聞は、一人ひとりの担当者が利用者の様子を写真とともに知らせる内容になっており、コロナ禍で面会が制限されている家族にとってはホームでの日常の様子を知ることができる大切な役割を担っています。長く勤めている職員が多く、職員間の会話の中で自然にフォローしたり、アドバイスを伝えることができています。管理者は特養での経験があり、個人ケース記録の大切さや時間がかかっても二人介助を行うことを薦めています。職員も傾聴する時間を大切にし、利用者が持つ力を発揮できるケアを目指しているホームです。「色々なことを学びたい」「利用者や家族の笑顔が嬉しい生きがいになっている」と話す職員は皆前向きで元気いっぱいです。管理者は、利用者・家族こそが自分たちに様々なことを伝えてくれる教科書であると考え、ホームでの生活が学びと成長の場であると認識し「寄り添う対応と会話」を大事にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は玄関1階・2階フロア・休憩室に掲示している。常に誰でも目に留まるようにし共有し実践に繋げている。又、半年毎に達成度と自己評価を行い、日々のケアの向上に努めている。	法人の理念は玄関や休憩室に掲示し、いつでも確認できます。方針は職員で考え掲示をし、半年ごとに自己評価を行い、振り返りをしています。「個人の意志を尊重し、地域でよりよい生活が継続できる場を目指します」を実践し、スピーチロックに注意して残存機能を活かし、自立決定を促すケアを重視しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、気楽に挨拶を交わしている。近隣の子供たちが気軽に訪れ、フローラの玄関前広場で遊ぶ事があり、地域との日常的な交流を図っている。	コロナ禍で日常の交流が中断されていますが、地域の自治会長も参加する運営推進会議でホームの状況を伝え、意見等をいただいで交流が途切れないようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の散歩、買い物の際は毎回挨拶を交わす事により馴染みの関係になり気軽に声をかけてくださる。又、散歩途中に知り合いに出会うこともあり暫く談笑されることもあったが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、地域住民の方々と交流を図る場に、併せて地域から代表として自治会長・地域包括支援センターの職員・知見・家族に参加していただき、事業所の活動報告を行っている。様々なアドバイスや提案もあり、質問や意見交換等サービスの向上に繋がるよう努めている。	自治会長・包括支援センター職員・家族の参加があります。運営推進会議は近くにある同法人のグループホームと合同で開催し、意見交換の中で認知症への理解を地域に進めています。自分たちと違うホームの貴重な意見を聞ける場にもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括担当者の出席もあり、相談・助言をしていただきやすい環境となっている。基幹型の職員や社会福祉協議会の方々とも連携し、年間で認知症サポーター養成講座も協力して一緒に取り組んでいたが、新型コロナウイルスの為、今は中止している。	顔を合わせるグループホーム連絡会の活動は自粛中ですが、居室の空き情報などもラインを活用してお互いに連絡を取り合っています。また、職員の唾液によるPCR検査を行い、感染予防への意識を高めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し身体拘束の理解を深めるよう努めているが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。又玄関の施錠は、前の通りが車通りである事から、入居時には、家族に説明し了承を頂いている。	ナースコールを使えない利用者に見守りを目的にセンサーマットをPHS(携帯電話)と連動させ夜間に使用しています。玄関は施錠していますが、利用者の様子を見ながら散歩に出るなど閉塞感をなくすように工夫し、エレベーターは自由に使えるようにしています。身体拘束・虐待防止・感染症の研修会などで理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に於いて学ぶ機会を持っていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止し、委員会のみで研修を行い、各部署に伝達講習を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に後見人が付いている方がいる為、今後は学ぶ機会があれば活用したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学に来ていただき納得した上で契約をして頂いている。家族の不安や疑問はその時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月担当職員が利用者の近況を「フローラ新聞」にて家族に報告している。来訪時には家族からの不安や意見等を聞き、職員にも伝達している。玄関には意見箱を設置している。	家族からの意見・要望があるときはホームでの状況をわかりやすく丁寧に説明をし、家族の思いにも近づけるよう向き合っています。職員への周知は連絡ノートに記録して伝えています。家族からも「どの職員もきちんと対応してくれるので安心」との感謝の声があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議に参加し、意見及び提案を討論する場を設けている。日々職員とのコミュニケーションを取っている。	管理者は、いつも声がかけやすく相談しやすい環境にあります。職員は、管理者のフォローに感謝し、利用者の笑顔に喜びを感じる職場環境です。また、体調を崩した時なども職員が互いにフォローし合って必要な休暇も取れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃より職員の声や勤務状況を把握できるように努めている。話をしやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員個々の力量を把握し、職員それぞれに見合ったケアの方法を伝達し、チームで協力していくことを提案している。介護には根拠が必要不可欠であることも伝えている。又法人内で様々な研修を行い自己啓発に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月中区グループホーム連絡会を法人内の施設を利用し開催し、交流や意見交換、情報交換を行ったり、空き室状況の共有も行い相互に協力していたが、現在は新型コロナウイルスの感染防止の為、実施していない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の様子、要望、不安などを家族より傾聴し関りを多く持ち、安心して過ごせるよう心掛けている。面談の段階で本人に安心していただけるよう笑顔で接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で信頼関係の構築に努め、不安な事、要望等を聞き、その上で施設ではどんな支援が出来るかを説明している。出来る限り今までと同じように生活していただくように支援する事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を十分傾聴しアセスメントを行い、本人の希望に沿った支援をすることで安心した生活を送っていただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活に近づけ、食器の下膳、洗い、洗濯物干し、たたみ等共同生活の場と理解し、寄り添い支え合う関係性を築いている。利用者の中には台所に食器が下膳されていると、自ら台所に入り職員と共に洗い物をする事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での日々の様子を細かく報告している。家族の声を聞き安心できる利用者には電話にて話をし、本人を共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望にて故人のお墓参りに2週間に1回兄弟で協力し出掛けていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。	外出が困難なため、家族からの電話は利用者者に繋ぐようにしています。ガラス越しに面会をすることもあります。日曜日にはおやつと一緒に手紙を書いて持ってくる家族があり、職員が利用者者に手紙を読んでいます。利用者は「今日は土曜日やな」と職員に確かめながら日曜日を楽しみに待っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行や、精神疾患を患われている利用者もおり、トラブルになりそうになる事もあったが、職員が間に入り収まっている事もある。又、洗濯物干し等利用者同士協力しながら進めていける関係も持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所により利用終了した場合でも、家族との連絡は必要に応じて行っていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、お断りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を聞きレクリエーションを実施している。又、入居者の意向の把握が困難な場合には、本人の表情等を観察すると共に、家族から意向を聞き、カンファレンスや業務会議にて共有し、課題を検討しケアプランに反映させている。	2人で入所している利用者の、ひとりの退所後も、歩行の障害にならないように配慮した上で退所者のベッドを部屋に入れ、残された人の気持ちを支えています。利用者の日頃の声や、手に入った力の強さからも変化を捉え、些細なことでも気づきを伝え、共有するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	月に2回家人と共に亡き夫の墓参り等に出掛けたり、近隣に住む兄弟の自宅で共に食事をする機会を設けていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に合った一日の過ごし方を基本にその人らしい生活を送っていただいている。居室に戻りテレビを見たり、衣類の整理をしたり、自由に生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前に全職員に現状の気付きや課題などの情報を集め話し合い決定している。家族の意向も聞き計画に反映させている。3か月後には評価を行い現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスは6ヶ月に1回、職員も参加し課題を検討しています。日常はプランとチェック表で実践を確認し記録しています。プランも6ヶ月で見直しわかりやすい言葉で表現されています。個人ケース記録も毎日しっかりと書かれ、カンファレンスの資料にもなります。	個人ケース記録の中で1週間の排泄・食事・バイタル等の記録下の空欄に、ケース記録のタイトル(主な事)を記入することで1日の様子がわかりやすくなります。プランのチェック表に支援する項目を数字でなく言葉で入れることと下の空欄に気付きを記入してはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は個人ケースに記載し、朝、夕の申し送り、申し送りノートを活用し職員間で情報の共有を図り、ケアの実践に繋げている。3か月後には評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に住んでいる兄弟の自宅で時々共に食事をしていたが、新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の秋のたんじり祭りや同法人開催の敬老会、落語を鑑賞していたが、新型コロナウイルスの感染防止の為、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には利用者の少しでも異変があれば報告し適切な指示を仰いでいる。又、夜間や緊急時も連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	ホームでは2週間に1回の嘱託医の往診や法人内より看護師が週1回訪問し入居者の健康管理を行っています。希望があれば入居前のかかりつけ医での受診も可能です。嘱託医は月2回にかかわらずホームを毎日訪問していますので相談があれば適宜対応が出来ます。又、夜間や緊急時も嘱託医と連絡が取れ、指示を仰ぐなど24時間適切な医療が受けられるよう体制を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週1回健康チェックを行い、日常の健康管理の支援をしている。利用者の少しい異変について相談や助言をもらい受診に繋がることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は、管理者や職員が面会に行き、安心して治療が受けられるようしていたが、新型コロナウイルスの感染防止の為、定期的に電話連絡のみとなっている。又、病院関係者との連携を図り、適切な療養ができ、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の対応や事業所の方針を説明し理解を得ている。又重度化や終末期のあり方については、主治医より適宜家族と面談して状態の説明を行っている。管理者からも施設で出来る事を十分に説明し理解していただいている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応についてホームの方針を説明、安心して過ごせる様に努めています。利用者が重度の状態になった場合には本人、家族の意向を適宜確認しながら、医師、看護師、介護職員と支援方針を話し合いホームで出来る限りの支援を行っています。これまで看取りの件数は数例で、医療機関で終末期を迎えられる方が殆どです。今後は看取りも視野にいれた体制作りの必要性を感じています。法人の終末期や看取りの研修にはホームの職員も参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には、緊急対応マニュアルを作成し、全職員が周知している。又年間、法人内の研修会で「緊急時の対応」や他1回「事故発生時の事例」等の研修会を開催していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止し資料を見ながら各部署で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、1回のみになっている。訓練時には近隣の方々にも声を掛け協力を得ている。	毎年、年2回の消防訓練を実施し消防署より助言を得ています。火災発生時、地震発生時の災害対策マニュアルも作成、職員間で周知しています。マニュアルの見直しも定期的に行っています。備蓄は飲料水や食料品、介護用品等3日分ストックし表にして管理しています。又、非常災害時には地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で声掛けをしたり、地域の行事には積極的に参加して日頃より交流に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けを行い、トイレ誘導時には周りに聞こえないように配慮したり、プライドを傷付けないよう声掛けや対応をしている。	職員は家族、利用者一人一人の考えや意思を尊重し大切にしたい声掛けや対応を心がけています。特に排泄や入浴の際はさりげない声掛けや本人の意思を尊重した声掛けを行っています。接遇マナーやプライバシー保護の勉強会や研修も年に1回行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅願望や不安等がある時は、寄り添い傾聴し本人が納得できるまで時間を掛けて対応している。又、日常生活において、本人の思いや希望を聞き自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身でエレベーターを使用し、自由にフロア内を行き来したり、「お部屋に戻りたい」と希望があるときは、居室にて一人静かに過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室で鏡を見ながら自身で櫛を使用し髪を整えたり、好きな時間に居室のハンガーに掛けている自身の衣類を着替え、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は一階で食事の支度をしているが、調理レクやおやつの際は、利用者の希望を聞き、利用者と職員が共に調理、盛り付け、片付けをしている。	ご飯はホームで炊き、副菜はチルド食品を温め、必要に応じて、一口大や刻み食など利用者が食しやすい工夫をし提供しています。準備や食器洗い等の片付けは利用者も一緒にしています。月に1回行っている調理レクレーションやおやつは献立から利用者の要望を取り入れ、調理から一緒に行い、楽しみの一つになっています。人気メニューはお好み焼き、焼きそばです。コロナ禍までは外食レクレーションやおにぎり持参で公園に行っていた楽しんでいました。※調査日が調理レクレーションの日でお好み焼きを調査員も食しましたが、とても美味しく家庭の味がしました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表に毎回の食事、水分量を記入し、一人ひとりの一日の量を把握している。毎月の体重測定により、大きく体重の増減がないか確認している。又、一人ひとり食べやすく本人に合った食事形態や分量で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科医、衛生士により利用者に合わせて口腔ケアを行っている。介助を要する利用者にはネオステグリンを使用しうがいをしてもらったり、歯槽膿漏で出血のある利用者にはコンクールジェルコートにて口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合チェック表を活用する事により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けトイレで排泄をしてもらっている。夜間、自身で排泄できるよう居室にポータブルトイレを置いたり、時間が空いている時はトイレの声掛けをしている。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人一人の排泄パターンを把握しています。日中は出来る限り布パンツを着用し、トイレでの排泄を基本としています。夜間排泄の失敗を気にして15分毎にトイレに起きていた利用者が職員のアドバイスで夜間のみ紙パンツを使用し、熟睡できるようになった事例もあり、個々にあった排泄用品の使用にも気を配っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分量、食事量を把握し無排便が続く場合は、医師と相談し個々に応じた便薬の調整を行っている。又、希望する利用者には便秘予防として夜間、冷水を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回入浴日を設定しているが、週4回入浴される方、外出や希望する利用者には都度対応し、一人ひとりに沿った支援をしている。	入浴は週2回を基本としていますが、利用者の状況や希望により柔軟に対応、週4回入浴している利用者もいます。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じる行事浴も行っています。入浴を渋る利用者にも無理強いせず、生活習慣や好みにあわせた声掛けするなど個々に沿った支援をしています。中には家族の協力を得て入浴している利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に応じて居室やフロアソファにて臥床している。又、就寝前には安眠や休息に繋がるように個々に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬に関わり、薬情は個人ケースにファイルし、利用者一人ひとり内服している薬はいつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干し、畳み、清拭タオル巻き等職員と共に行い役割を担ってもらっている。又、調理レク、カラオケ、体操、新聞や雑誌を読む、編み物、塗り絵等の楽しみごとを取り入れ気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日は外気浴や近隣へ散歩に出掛けていた。初詣、お花見、花火見学、敬老会、だんじり祭り見学、クリスマス会、等季節を感じてもらえるよう支援していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。	今年度はコロナ禍の為、日常的な外出や散歩はできていませんが、通常は天気の良い日は近隣の公園へ散歩したり、希望があれば日用品の買い物に出掛けたり、ドライブに行ったりと外に出る機会を大切にしています。年間を通じて四季折々の外出行事も計画されています。又、これまで馴染みにしていた喫茶店へ家族と一緒に毎日出かけたり、月1回家族と外食を楽しんでいる利用者もあり職員はあたたかく見守っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と理解により買い物に行きたいと希望があれば、職員同行し出掛けていたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話がしたいと希望があれば、職員が取り次ぎ電話で話をする事で安心出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の居室を間違えないように表札を掛けている。夜間、トイレや浴室が分かるように張り紙をしている。環境整備等の時に温度、湿度を確認し居心地よく過ごせるよう支援している。又、コロナウイルス感染予防の為、換気も適宜行っている。	建物の入り口は階段とスロープがあり、車椅子の利用者も出入りしやすくなっています。玄関を入ると左の壁には家族が描いた大きなフクロウの油絵が飾られ、右手にはカウンターがあり意見箱や利用者の手作りの作品が並べられています。壁にはホームの理念と方針が掲示してあります。食堂兼居間は日が差し込み明るく広々としており、日中は殆どの利用者が食堂兼居間で過ごしています。利用者の動きにあわせソファを置くなどゆったりと寛げる工夫をしています。職員と一緒に貼り絵の作品をつくる人や、テレビをみながら雑談をしている人など、それぞれ思い思いに安心して過ごせる場所になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サブリビングにはソファを置き、横になったり、利用者同士がソファに座り会話をしたり、利用者自身でエレベーターを使用し、一階へ降り自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、利用者の馴染みのテーブル、椅子、家具や写真、利用者の手作りの小物を飾り、自身の部屋と認識し、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室入り口には手作りの表札が掛けられており、室内には洗面台とベッド、クローゼットが備え付けてあります。利用者が入居前に使用していた馴染みの家具等が持ち込まれ家族写真や利用者の手作りの小物で飾られた居室はその人らしい居心地の良い部屋になっています。洋裁をしていた利用者の部屋には、トルソー(洋裁用人体)が置かれていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、移動は車椅子、歩行器、手擦りを持ちながらの移動など残存機能を活かし安全に過ごせるよう支援している。		